

# Monthly Report

2020年2月号

特集

冬道の安全走行

今シーズンは、これまでは暖冬のようなのですが、年明けの5日に、栃木県では路面凍結によるスリップ事故が100件以上発生したとの報道もありました。

この時期に、路面の積雪や凍結の影響から、事故のリスクが高まることは明らかなので、油断せずスリップ事故などへの対策をきっちり立てておきましょう。



## 1. なぜスリップ事故は起きるのか

交通事故は複合的な要因で発生し、その多くが直接的には運転者の操作ミスなど「人的要因」によるものでありますが、間接的にはドライバーにミスを誘発させた「車両要因」や「環境要因」も影響していると考えられます。

冬場のスリップ事故について、この観点から以下に事故要因を整理しました。

要因別のリスク		【スリップ事故での具体例】 いつもの道を早朝に走行していたら、突然スリップしガードレールに衝突した
人的要因	速度超過 急ハンドル・急ブレーキ 車間距離不足 道路状況を事前に確認せず出発 規制標識等の見落とし	
車両要因	夏用タイヤでの走行 チェーン不装着での走行 視界不良 例)窓ガラスの結露、雪の付着、ワイパーの不具合等 制動装置の不調	
環境要因	路面の凍結 例)カーブ・坂道・橋の上・トンネルの出入り口・交差点付近等 気象条件の変化 例)出発地と目的地の気象条件の変化 吹雪や積雪	



## 2. 人的要因の個人差

「人的要因」「車両要因」「環境要因」のうち、人的要因であるリスク判断は主観的なものであることから、そこには個人差があり、それが事故発生にも関係していることが指摘されています。

「同一の客観的な現実に対しても、人により、また状況によって認識された現実はそれぞれ異なるものなのである。安全や危険を判断するとき、このことに気づいていることは重要である。」※

※ 土田昭司編著. 安全とリスクの心理学. 培風館, 2018, P.17

## 3. 冬道走行の安全対策

冬場の事故要因から、安全対策例を下表にまとめました。

要因	具体例	対策例
人的要因	速度超過	速度を十分に抑え、路面状況に合った速度で走行する
	急ハンドル、急ブレーキ	速度を抑えて走行し、急な運転動作は絶対に行わない
	車間距離不足	急な凍結路面の出現に備え、車間距離は長くとる
	道路状況を事前に確認せず出発	・出発前に走行ルート of 路面状況を確認し、状況によっては車の使用をやめる ・時間に余裕を持って早めに出発する
	交通規制等の見落としや無視	道路の情報板やハイウェイラジオ、サービスエリア等でこまめに情報を確認する
車両要因	夏用タイヤでの走行	冬場は冬用タイヤにはきかえる
	チェーンなしでの走行	チェーンを携帯し、必要に応じて装着する
	視界不良	・空調により結露を防止し、車体に付着した雪は早めに取り除く ・冬用ワイパーを利用する
環境要因	気象状況	出発前に走行ルートの路面状況を確認し、状況によっては車の使用をやめる ＜ご参考＞ 公益財団法人雪センター「現在の道路の状況」 <a href="http://www.yukicenter.or.jp/?page_id=89">http://www.yukicenter.or.jp/?page_id=89</a>
	路面凍結	路面の状況に合った速度で走行する ※滑りやすい坂道、橋の上、トンネルの出入り口、交差点には特に注意

**上表も参考に、冬場の安全対策をきっちり立てましょう！**



損害保険ジャパン日本興亜株式会社

〒160-8338 東京都新宿区西新宿1-26-1  
ホームページ <http://www.sjnk.co.jp>

SOMPOリスクマネジメント株式会社

〒160-0023 東京都新宿区西新宿1-24-1  
ホームページ <https://www.sompo-rc.co.jp>

お問い合わせ先